

事例研究報告

小学部児童が ひらがなを読むための指導

児童・生徒の実態

- 知的障がい
- 言葉でのコミュニケーションをとることができる。
- 自分の名前を読むことができる。
- あ～た行(き以外)は読むことができる。

保護者の願い

ひらがなを書けるようになってほしい。

教員の願い

書くことよりも読むことの方が困難さがあつたため、文字が読めるようになってほしい。



保護者に説明し、読み指導を行った。

アセスメント

語の受容課題

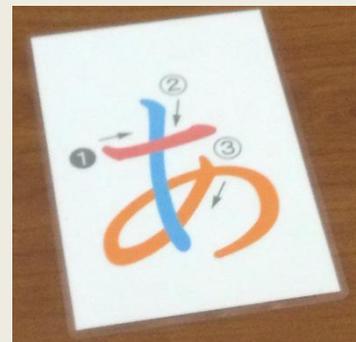
教員が発音した音声を聞いて、2～3枚のひらがなカードから、カードを選択して教員に渡す。

▶ 「あ行」から「た行」まで理解できた。

語の読み課題

カードのひらがな1文字を自分で読む。

▶ あ～た行(き以外)は読むことができた。



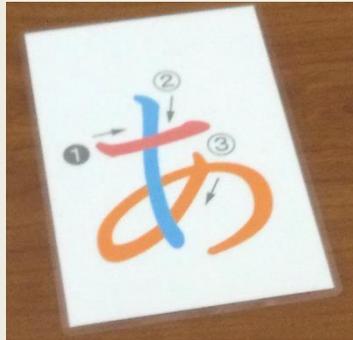
アドバイザーからの助言

- 使用教材のカードの裏面にはイラストのないものを使用する。
- トークンエコノミーシステムを使用する。
- 試行の流れを切らないように何度か試行してからトークンを渡してもよい。

指導の手続き

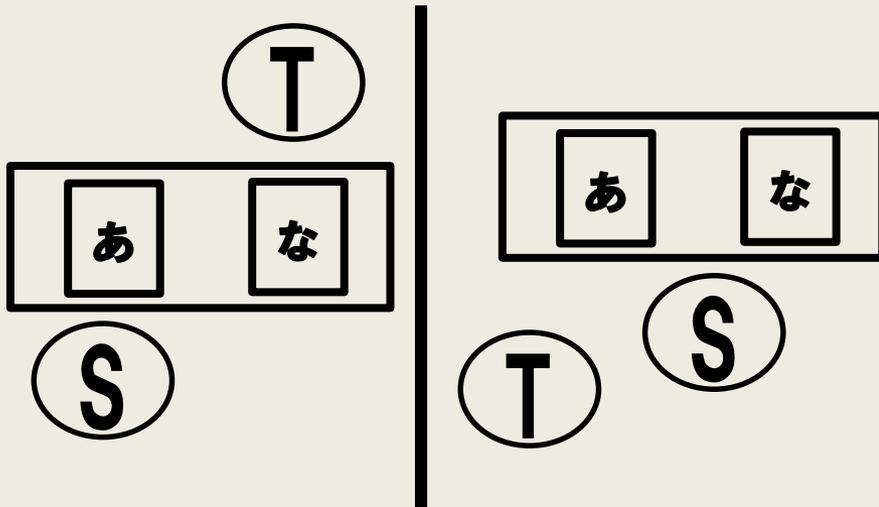
- 指導途中であった、「な行」で実施した。
(「な行」以降は読むことができなかった。)
- 受容課題を行ってから、読み課題を行った。
- 指導開始前に、「学習が終わったら、iPadで好きなゲームができること（ご褒美がもらえること）」を伝えた。

指導の手続き(教材)



- ひらがなの単音が書かれたカード「な行」と習得済みの「あ」のカードを用いた。

環境



- 対面で学習を行った。コロナ感染症対策の状況によって、横並びで行うこともあった。

指導の手続き(読み課題)

手順

①はじめに2～3枚のカードを提示し、「これは○」「これは△」と伝える。

②カードを提示する。
(修得済みの文字と「な行」の文字)

③「これは？」と聞きながら1枚を指さす。

④児童が「○！」と答える。

⑤「正解！（またはピンポーン！）」と伝える。

⑥③～⑤を各字を達成基準に達するまで試行する。

⑦ご褒美（iPad）を渡す。

指導の手続き(達成基準・中止基準)

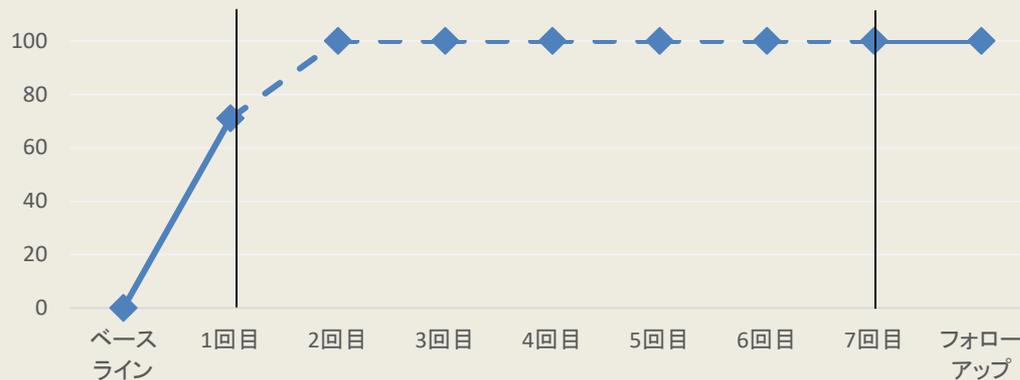
- 平均試行回数は、8回であった。
- 連続して3回読めなかった場合は、中止とした。
- 連続して3回読めた場合、達成とした。

記録方法と記録

- プロンプトをした時は、「P」,
正しく読めた時は、「+」。間違
えた時は、「-」と記録した。
- 達成率をグラフに表した。

指導の成果(な～ぬ)

な



に



ぬ



考察・まとめ

- 受容課題を行った後に読み課題を行ったことで、短期記憶に残りやすく、達成率が100%になったと考える。
- はじめに「これは○」と確認することで、自信を持って答えたり、意欲的に課題に取り組もうとしたりする姿が見られた。